



童話 磐城黒姫物語 一

斧 青 三 郎

昭和三年五月、大阪毎日、東京日日新聞紙にて大阪クラブ白粉本館中山太陽堂内文化協會主催で全國より「顔に關する傳説」と「齒に關する傳説」との懸賞募集のあつた際、私が応募したのがこの「磐城黒姫物語」である。等内入選を得て嬉しかつた當時の私は、十九であつた。

いつの時代だか知らないなごやかな春の光が、ばら色にあまらんだ空気に溶けはじめ、向山の小島の里は淡い白霞の底に安らかな夢を、むさぼつておりました音のない静かな、石城の真晝です。

梢を渡るそよ風が、ペンペンと青い松葉を叩いて、名も知らない小鳥が、令ろうと春の調べを唄ふのでした。

時には、おんまや霞の中から湧き立つ様に、かん高い鶉の啼く餘韻が、平和な里の静寂を破るのでした。

青々とした水を一ぱいに含んだ、若草にはなよなよと春風が、戯れてその若草の上を、素足の二童子が歩みも遅く、牡牛を柳のむちを振り振り追つて参りました。

菜の花に遊んでゐた、黄い蝶々が、童子の切り結びの髪に止まつて、まどらかな真晝の夢を結んでました。

定価一冊五銭、月刊五拾五銭、半年二圓五拾五銭、一年五圓。發行所：常磐毎日新聞社、印刷所：常磐毎日印刷株式會社。

銀の小鈴がつけてありました。この庄屋とは、もう六十を越えた、お人の好い代文爺さんと、情け深いお婆さんとが何の不自由もなく、明けては暮れて、平和な日をすごしておりました。老夫婦の外に小さい時から我子の様に育て上げた兄弟童子がこれです、牛を牽いた方の色白の童子が兄で、白菊童子と呼ばれ、林檎の頬を見せた方が黄菊童子と言ふ弟でした。

不自由を知らない老夫婦でしたが、ただ、悲しい事には、自分の子供のいない愁しさでした。何とかして子供を欲しいと、明けても暮れても悶へ煩いました。谷川瀬山が暮れて、点々と狐火が見える頃、いつくしみ深い老夫婦の両眼からは、とどめもなく涙を流すのでした。ある時は、小さい、

「兄ちやんヨ」  
「あいヨ」  
この童子は美しい目のばつちりした、この里の代文庄屋に雇れてゐる賢い兄弟でした。

この村の庄屋には、右と左に、白い倉があつて倉の圍りには、緑の松が植えてありました、松の小枝には

雉 子 (高月句會集)

雉子立つや日差しの早き御料林  
壘干す深山の里や雉の聲  
雉子鳴きて深山淋しき若の水  
大峯や谷にこだますきじの聲  
剥製のきじの目玉寒うして  
柚人の斧こだましてきじ晴るゝ  
炭がまの煙たなびき雉子なく  
さじ吊るし峠の茶屋や小松原

湖良秀十良紅湖秀  
晴亭峯絲亭果晴峯

白菊、黄菊の二人までが一緒になつて悲しみました。時折り兄の白菊童子は、小さな腕を組んで頭を垂れて考へました。黄菊も小さな心を傷めて考へました。けれども全くどうする事も出来ませんでした。老夫婦は、毎朝の様に、裏山に登つて、小さな尼子お稻荷様の祠の前に頼づいては、

「どうぞ、神様私達老夫婦に、子供をお授け下さいませ、例へ赤子が黒くとも、小さくとも決して構ひませんと、同じ型に、はまつたお祈りを唱えながら一心にお願ひをするのでした。それが朝ばかりでなく、夕もやの垂れた、淋しい黄昏にもお祈りを怠りませんでした。

晴れ渡つた或る日の事でした。白菊、黄菊の二童子は長い熊手を持つて、裏山に、松葉かきに出かけました。

燦々とした初夏の陽が、若葉を美しく染めて、細い小徑には雛菊の花や勿忘草が一面に咲き亂れておりました。うす暗い大樹の茂みの中を奥へ奥へと行きました。笹藪の中から、時折りキキと叫んで、山鳥や雉が、美しい羽を擴げて飛び立ちますと、二人は驚いて顔を見合せて笑ふのでした。

文藝募集

市原醫院

平町 田町  
電話一四四番

ランドセル  
手提カバン  
◇小學生用靴各種◇

總皮ランドセル大型 ¥.80  
〃 極大型 ¥.90  
牛皮特選ランドセル ¥.300

ツルヤ  
平・四 電一四〇

看護婦急派  
の求めに應じます  
平町南町  
平看護婦會

門 專  
産 婦 科  
人 科  
柳 病 科  
花 科  
◎入院隨意  
井坂醫院  
平町田町 電話五五九番

花柳病科 外科 專門  
院醫科外村木  
際橋目丁六町平  
〇九三話電

市原醫院  
平町 田町  
電話一四四番

集募徒生  
◎願書受附 三月末日限り  
◎詳細 本校宛問合せの事  
◎位置 福島縣平町田町  
電話三二八番

文部大臣認可 藤田女學校

◎本科一年 ○裁縫專修科一年  
◎專攻科 ○師範科  
◎本科二年 ○裁縫專修科二年編入

來る 二十五日より  
大特賣  
景品付  
星野時計店  
り通場車停平  
可愛御子様卒業  
御進級、御入學の  
記念には是非……  
プレゼントして  
喜ばれる星野の  
時計をおすすめ  
致します。

# 玉川の礦毒問題

## 炭礦側に愈肉迫

### 死活問題であると爲し

## 猛運動開始

既朝玉川村藤原川の礦毒問題は

### 同河水

を唯一の灌漑用水に當てつゝある同村宇住吉、野田、富岡、島等の被害田は全村耕地四百八十町歩のうち二百四十四町七反以上に達し被害田の稻は結實期に葉の枯死するもの穂首より折れるもの、外二毛作は全然獲れず現在の耕地すら礦毒の爲め白色化して居るので

### 收獲の

如きは一反歩より平均六俵獲れるものが沿岸では二俵及至三俵に減じ年々七、八萬圓の大減收を見つゝありとの事にて野崎村長は過般入山炭礦に向つて是れが対策として炭礦より排出される濁水の濾過沈澱設備の設置方を交渉したが炭礦側は

### 既記の

如く被害は自己の責任にあらずとて顧みず何等の設備を構じないが炭礦の云ふ如く上流に被害のないのは炭礦からの排水中に湯が混入して居る結果上流では灌漑水として使用出来ず魚類の生棲も萬事堰附近以下に限られてゐると爲し今は此の死活問題を社側が不誠意に取扱ふに

全村民を擧げて争はねばならぬと同村では昨日付を以つて仙臺礦山監督局に技術員巡遣の申請書を提出し明日には野崎村長が

出縣當局に猛運動を起し尙近く村民大會を催して會社側に對抗すべく寄々協議中なので會社側の出様によつては相當紛糾するものと見られてゐる

## 側溝寄附に

### 嚴重な督促

#### 本日町長から

#### 未整理の區に

平町國道鋪裝の前提である長橋町より五丁目愛谷江筋橋に至る延長千五百十二米の國道側溝工事は過般全工事の終了を告げ昨日縣土木課の田中技手來平竣工検査を行つたがこの総工費一萬二千圓の中の負擔を割當てられた受益者側の寄附は一

## 内郷村長沼田少佐

### 奉天戰を説く

#### 平商の陸軍記念日講演

#### 外各校の記念計劃

平商業學校では明日の陸軍同校講堂に於て三十七、八記念日に際し午前九時より半の戦役に秋山挺進支隊に

参加し拔群の功を建てた内郷村々長騎兵少佐、沼田濱之助氏の實戰談をきき其當時を回顧し終つて松ヶ岡公園の忠魂碑を参拜する筈である

警中でも午前九時より同校講堂に於て配屬將校大井川大佐の講演がある

既報警城高等女學校では皇太子殿下御降誕記念事業として校旗を制定する事になり過般來東京高島屋に於て調製中であつたが此程出来上つたので明日の陸軍記念日を卜し午前九時より同校講堂に於て之れが樹立式を舉行終つて正本校長の陸軍記念講演がある

平町各小學校では明日の陸軍記念日には國旗を掲揚し校長の講演後各左の如く郊外遠足を催すと

- 第一 (一年) 白土八幡神社 (二年) 好間村龍雲寺 (三年) 好間村上野原水道貯水池 (四年) 内郷村金谷應打場 (五年) 夏井村大國魂神社 (六年) 好間村古河炭礦 (高等科) 平窪村石森山
- 第二 (一年) 平窪村曲田 (二年) 同八木内 (三年) 中平窪 (四年) 江筋橋 (五年) 五反田 (六年) 下小川 (高等科) 關場
- 第三 (一年) 松ヶ岡公園 (二、三年) 物見ヶ岡 (三、四年) 鎌田山 (同女) (五、六年) 飯野龍門寺

## 全工事終了

### 豫定期日まで

#### 匡救事業が意外に進捗

昭和八年度の郡下各町村の匡救土木事業は竣功豫定期日の切迫にもない大體竣功を告げてゐるが本日迄平土木監督所に到着した竣工報告によれば

縣直營工事	九九%
町村工事道路	九七%
河川	九六%
港灣	八九%

等にて餘す所僅かであるので同所では豫定期日まで全工事の終了を告げるものと見てゐる

## 豫算其他重要事項

#### 昨日の平町農會が附議

平町農會では昨日午後一時から平町役場會議室に於て總會を開催昭和九年度豫算平町農會經費

收支豫算の件全上分賦収入方法に關する件、昭和七年度平町農會經費決算承認の諸件を付議満場一致可決した、因みに九年度收支豫算は各六百八圓である了つて同會に於ける昭和九年度の

事業方法を協議左の六項目を決議平農業界の向上發展を圖るべく邁進する事になつた

- 一 自給肥料の奨勵
- 二 試作田、苗代、毛

村神社

七十六俵に達する見込みである

#### 高久實業卒業

高久實業公民學校卒業式は昨日午後七時から舉行した

#### 赤井第一講演

赤井第一尋常高等小學校では昨日午前十時から本縣教育新聞社長作山美八氏の講演をきいた

#### 平町人事

△田町鐵道官舎北野長次郎 氏四女タカ子 回 出 生

△久保町一六當時東京市淺草區橋場町三丁目佐藤敏彌氏妻トミ 回 死 亡

#### 平職界紹介所報告

回人を求める方

- △女中 十七八—五十才迄 尋卒 月五六圓
- △菓子行商人 二十才以上 尋卒 賣上の二割支給
- △商店雜役 十八九才—二十五才 尋卒 月十二圓
- △炊事婦 二十五才以上 教育程度不問 日給四十錢—五十錢

回職を定める方

- △小使 二十九才 高卒
- △事務員 二十一歲 中卒

平倉庫の販米 農平業倉庫石城販賣利用組合の共同販賣は十二日午後三時から同所に於て行はれるが出荷俵数は平倉庫の百三十四俵、勿來の百二十三俵、神谷の五十四俵で合計三百

# 火防觀念向上の爲 放火しました

## 白々しい申立に 流石傍聴人も啞然とす

### 火防組合長の放火公判

昨年三月より八月に至る間十數回に亘る放火騒ぎに平町三萬町民を恐怖の

どん底に陥ち入れた火防組合長の身にあるもの

放火犯人として大センセーションを起した平町月見町二七酒小賣商元同町火防組合長伊藤喜一郎(三三)に係る放火事件の第一回公判は本日午前十時半より平支部公判庭に於て中島裁判長係り關口、佐藤(郡山)兩判事陪席、清田檢察立會、門傳眞木兩辯護士列席の下に

開廷されたがこの公判をきかんとする傍聴者は警女本年度卒業生百六十名を始め廷外にあふれ先づ裁判長の身分其他型の如き訊問あり後裁判長の火防組合長として表彰されたことのある被告が何故この大罪を冒したかとの訊問に對し

私の區民は火防觀念低く住宅附近は亂雑極まるものあり、之が原因となり火災を起す慮れありとして常に憾遺と思つて居りました

そのお前が放火するとは矛盾も甚しいではないかとの反問に對し

町内に火災でも起きれば町民の注意を喚起するこ

とができると思ひました……と放火した事を認め「組合長の位置にあるお前が放火をなせばその影響甚大であること位知り切つてゐることではないか」

「それが私は昨年三月上旬頃から病氣のため精神に異常でも来たしたのですか途、前後も辨へず大それた事をしたのです」と同町佐藤吉松方家外十

一ヶ所に放火した事を認め一先づ休憩、午後一時よりは證據調べを行ひ後檢察の論告に移る筈(午後一時記)

### 懲役五年を 求刑さる

#### 言渡は十日

別項一放火公判は午後一時再開：證據訊問の後同二時半清田檢察は立つて十數回に亘るこの放火は幸ひにして大事に至らず

發見されたとはいへ平町々民をして不安、憂慮、眞に噴火山上に坐する思ひを興へしめたことは許すべからざる大罪である

### 「神の使が」 平署に檢舉さる

#### 駄ボラを吹く怪祈禱者 副業に無免許灸焼き

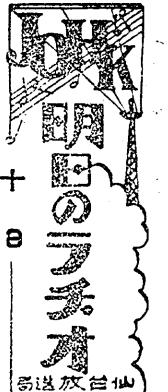
「神 昨夜夢枕に立ちて汝の家に近く大厄の襲ひかゝることを我に告げ給へり我は神の使ひにして汝らを呪ふ惡魔を靈顯あらたかなる祈禱もて退散させん」と勿体ぶつて無智な

#### 農民をタブラかして

一圓、二圓と祈禱金を逼取しだ悪らつなインチキ祈禱師が平署に檢舉された神谷村下神谷鎌田居住岩手縣水澤町生れ無職渡邊春吉(五五)は去月二十六日飯野村谷川瀨農本の本よ(三三)方に至り「お前の

#### 亭主が、過般大怪我を

負つて遂に死亡したのは何



明日のラズオ

### 今晩の部

後六、〇〇 子供の時間  
ラヂオスケッチ「滿洲戰蹟巡り」H.K.小供會指揮  
刈田仁  
後七、三〇 講演「明治三十七八年戰役の回顧」陸軍少將 山崎定義

### 報豫氣

北西の風強く温度降り晴曇半す

後八、〇〇 舞臺劇「息子」  
新歌舞伎座より中繼 市川段四郎外  
後八、四〇 小唄 唄永井ひろ、三味線 鈴木つる  
後九、〇〇 ビアノ獨奏  
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

### 明日の

前七、〇〇 基礎獨逸語講座 橋本忠夫  
前八、〇〇 家庭講座  
「編物」山脇敏子  
後八、〇〇 獨唱とマンドリン合奏 内本實、ルネスタ、井ノテツト  
後二、〇〇 家座講座「長唄のお稽古」杵家隆七  
後二、五〇 陸軍記念日記念演習  
後五、三五 法律講座 中川善之助

後六、〇〇 (子供の時間) お話と軍歌「日露戰爭で生れた軍歌」堀内敬三、ゾカルフ、オア合唱團  
後六、二五 基礎佛語講座 目黒三郎  
後七、三〇 時事解説 鈴木貞一  
後八、〇〇 吹奏樂 戸川學校軍樂隊  
後八、三〇 琵琶「旅順の會見」高峰筑風  
後八、五〇 ラヂオドラマ「卅七八年戰役」梅島昇一座

### 記帳方法の 講習會開催

#### 統計協會が主催

#### 火見移轉協議

石城郡統計協會では生活改善を計る目的の下に左記日割を以て記帳講習會を開催する事になつたが縣から吉田統計課長臨席講演なす筈△三月十七日平△十八日小名濱△十九日植田

火見移轉協議 平町役場では十二日午後一時から役場町會議事堂に警備委員會を召集火見移轉につき協議すると

### 急勾配で危険 屢々正面衝突

#### 久保町好間間縣道 改修を縣廳に陳情

縣道上三板平線は近時自動車網の發展に併ひ交通極めて瀕繁であるが同路線中平町久保町より好間村大字下好間澁井地内に磐越線鐵道踏切間の東西約二百メートルは現在十分の一の急勾配で双方より進行する自動車

は互に見透しがきかず正面衝突等の事故多く延びて鐵道事故も瀕出するとの理由で本日平町長並に好間村長連名で縣當局に同路線改修の陳情書を提出した

#### 田人校學藝會

田人村黒田小學校では九日午前

### 三堀兩氏の 送別會開催

平町法曹團では今回の異動で榮轉した三堀檢事及び緒形監督書記兩氏の送別會を十二日午後六時より丸友ホールで開くが會費二圓で一般参加者を歓迎すると

### 定員の 過半数突破

平町各中等學校では過般來新學年の生徒募集を行つてゐるが目下の處各校の志願者數は警中百二十名、警女百一名、平商五十八名である

### 高久消防協議

高久村消防組では昨日午後一時から同村役場會議室で幹部會を開き春季消防檢閲の件その他に就て協議した

